



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.2

【発行日】2008年12月20日 【発行】四日市看護医療大学 庶務課
〒512-8045 三重県四日市市菅生町1200 ☎059-340-0700 059-361-1401 http://www.y-nm.ac.jp/

創立1周年を迎えて

副学長 丸山康人

本学が四日市市、市立四日市病院をはじめとする地域の皆様のご理解とご支援・ご協力のもと平成19年4月に開学し、おかげさまで創立1周年を迎えることができました。改めて厚く御礼申し上げます。今年4月には99名の新入生を迎え、2年生142名と合わせ241名が学ぶ学内は一層活気に満ちてきました。看護に関するより専門的な講義も増え、学内での学習以外に医療機関、企業、福祉施設等での実習もすでに始められています。また、10月には昨年度に続き学生による実行委員会を中心に大学祭が開催されるなど、創立間もない大学の伝統を自分たちの手で作り上げていこうとしている様子が見えられます。

さて、開学2年目となる今年3月、井上前四日市市長のご尽力もあり、四日市市の姉妹都市である米国・ロングビーチ市に立地するカリフォルニア州立大学ロングビーチ校との間に学術交流協定を締結することができました。その一環として8月の夏季休暇中には2年生29名が参加し、3週間の海外研修が実施されました。語学研修のほか、同校看護学科にお

いてアメリカの医療制度・救急医療についてのナーシングレクチャーを受け、その後、実際に医療施設にも訪問し、我が国とアメリカの看護・医療制度の違いを学びました。今後は、学生だけでなく教員・研究者同士の交流も計画しています。

本学の教育理念のひとつとして掲げている地域社会への積極的な貢献についてもご紹介いたします。昨年3月には、本学と産業看護研究センターとの共催で、公開講座「働く人びとへの健康支援～臨床看護に活かす産業看護学～」を開催し、地域の医療関係者をはじめ多数の方々のご参加を得ました。また7月には、三重県生涯学習センターが県内の4年制大学、短期大学、高等専門学校、放送大学を含めた全15校の高等教育機関との連携により開催している「みえアカデミックセミナー2008」において、露木教授が講師となり「魂は老いず」文豪丹羽文雄の晩年をしのぶ「アルツハイマー病の現状を考える」と題した講演を行いました。8月には、本学を会場として三重県健康福祉部「みえ次世代育成応援ネットワーク」による子育て父親応援教



室が開催され、来る1月には、三重県との共催による「地域の知の拠点シンポジウム『現代社会と健康』」文化・人との交流を活かした健康づくり」も予定されています。今後も、生涯学習機会の提供や地域社会との連携を通じ、地域貢献への取り組みの一層の強化に努めてまいります。

本学では、教育の質を向上させるための組織的な取り組みである「ファカルティ・デイベロップメント活動」にも力を注いでいます。「教育力を高める」を重点目標にし、研修会や講習を通じて教育力の充実を図るとともに、学生の学習意欲の向上と教育サービスに対する満足度の向上を目指して中・長期的な課題を設定し、教職員全員が具体的な検討を重ねています。さらに、看護実践能力の到達目標を検討する組織として到達度ワーキンググループを組織し、ニーズに因應する確かな看護実践能力を有する看護職者の育成体制の充実にも

努力しています。

先般、厚生労働省の「看護基礎教育のあり方に関する懇談会」から看護職員に求められる資質・能力についての議論の結果が論点整理という形で報告されました。ここでは、医療・看護を取り巻く状況の変化に対応していく専門職としての看護職員に求められる資質・能力として、まず一般的・普遍的な資質・能力を挙げています。とりわけ人間、生活、社会に対する理解力を高め、人権を尊重する意識の涵養につなげるための、豊かな一般教養の習得を第一に掲げています。看護基礎教育においてもリベラルアーツが重要であることが再確認されており、大学が看護職者の育成に携わる大きな意味がそこに示されているものであるといえます。

豊かな一般教養を基礎とし、その上に確かな看護実践能力を修得させることで、「医療崩壊」が叫ばれる現在の厳しい状況にも対応でき、その中で成長を遂げられる有為の人材を育成し、社会に送り出すことこそ本学に求められている役割なのだと考えます。これからの教育、研究、地域貢献などすべての面において地域の大学としての責務を果たし、地域での存在を着実に築いていくことに努める所存です。

皆様からの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

随筆

旅が与えてくれるもの

なぜか旅が好きで、それも小さな旅が好きです。50歳を機に学生時代の友人数人と短い旅を続けています。たぶん旅プランを立てるのが好きな友人がいて続いているのかもしれませんが、旅の終わりにには次回の旅の候補地を挙げ、それからメールによる情報交換があつて、旅行地が決まる仕組みになっています。そんな訳でこれからは自動的に旅は続きそうです。

最近4回/年ぐらいになり、メンバーの旅への渴望が増加してきました。それぞれがこころの休息を求めているということでしょう。メンバーは皆、仕事を休んで、忙しい毎日を送っていますが、仕事の合間をぬって、仕事と家庭の隙をぬって巧みに時間を作っています。そして、忙しい忙しいとヒューヒュー言いながら楽しいことはその気になれば積極的になれることを確認しあっています。

旅への思いは皆それぞれだと思いますが、私にとっては非日常による癒しに

なっています。日常の小さなゴタゴタがあつても新しい空間に身を置くことで、脳は旅モードに変換し、時間はゆつくり流れ始めます。新モードにはご馳走、温泉、四季折々の風景、土地の匂い、見知らぬ人とのふれあいなどが有り、懐かしさや安らぎを感じさせてくれます。私たちの生活空間には小さなストレスが塵芥のように浮遊していて、何処で、何時、何にふれるか分からないそんな日常の連続です。朝起き、昼は職場で働き、夜は家庭でのさまざまなストレスにさらされるといのが人生です。もしこうした緊張にまったく対処行動を起こさないとしたら、人間は生きてゆけないでしょう。その対処行動の一つとして日常と非日常を行ったり来たりしてする方法があります。

何と言つても非日常には小さな感動がいっぱい詰まっていますように感じられます。旅の魅力はこの小さな感動の連続にあるのではないのでしょうか。同じ風景でも四季折々の風情は様々ですし、

訪れた人間側の心情によって風景の彩色も違ってきます。もちろん音楽、演劇、映画といった芸術作品の見事な圧倒的な感動にこころを激しく突き動かされる

ことも感動ではありますが、旅でふと味わうささやかな感動にはこころを洗われるよう安らぎがあります。そして風景ののびやかな広がり、なぜかこころの容量を大きくしてストレスも相対的に縮小してくれるという効用があります。旅の終わりに「来てよかった、そしてまた来よう」という言葉をつぶやいています。

このように旅の魅力は非日常にある小さな感動に出会うことかもしれません。この小さなささやかな感動もその気になって求めなければ見逃してしま



精神看護学 教授
近藤 信子

ます。私たちには感動を捕まえようとする努力が必要かもしれませんが、捕まえ方は人それぞれですが、環境との出会い、生きた衝突ともいえますが、私たちはそこに何も感じずにいるか、その小さな出会いと対話するか、好みに従って選択しているのだと思います。そして、私の選択は、小さな旅であり、こころの問題をこころによって解決していますが、かなりの効果があります。

「四日市市制111周年記念事業」学生としての任務果たす

平成20年は四日市市の市制111周年にあたり、「四日市市制111周年記念事業」市民会議の学生委員の代表として、2年生の吉田真由美さんが推薦され、四日市市より委嘱状が交付されました。記念事業のコンセプト、企画策定およびその実施の推進等について積極的に意見を述べるとともに、企画案の周知や広報など果敢に取り組み、平成20年3月31日をもって、無事その役割を果たしました。

「四日市市制111周年記念事業」市民会議に参加して 2年 吉田真由美
2008年四日市市は市制111周年をむかえました。111周年をむかえるにあたって新たな一歩を踏み出すために、市民から議員を集め、昨年1年をかけて

会議を行い、111周年のコンセプトやシンボルマーク、市民や事業の111周年特別企画に対する会議を行ってきました。四日市を代表とする企業や市民団体の方々が集まる中で、私も四日市看護医療大学学生委員として参加をさせていただき、市民や四日市の企業の方々を本日に四日市をみんなで盛り上げようとしていることを強く感じました。私は、この大学に入学し、初めて四日市に来たのですが、四日市が温かくとても住みよい町であるのはこのような市民団体や企業の方が本日に四日市を大事にしているからであると感じました。



安田記念財団の奨学金

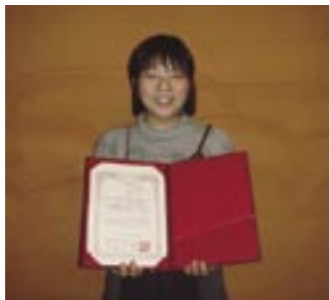
難関突破 見事栄冠

平成19年度「安田記念財団」の奨学金(看護学生に、本学学生の深田蘭奈さん(現2年生)が選ばれ、平成19年12月8日(土)ホテルグランヴィア大阪に於ける贈呈式に臨みました。同奨学金は、民間団体である安田記念財団が癌の治療・予防等に対して熱意のある看護師を育成するため、看護学生に奨学金30万円を無償貸付するものです。深田さんは、与えられた課題に基づき小論文を執筆、事前の学内選考で本学代表(学長推薦)となり応募し、採用数5名という難関にも関らず見事栄冠を手に入れました。

受賞学生のコメント 2年 深田蘭奈
受賞を聞いたときは信じられない気持ち

と喜びでいっぱいでした。応募するにあたり、様々な書籍を読んだり経験振り返りたり、「がん看護とは何か」を改めて考える良い機会になりました。その中で感じたことや学んだことが、今後の自分の看護観へ繋がると信じています。

これからも気づきや学びを大切に、一歩ずつ前進していきたいと思えます。



個人情報保護研修会

講師 名古屋大学 大学院法学研究科 副研究科長・教授 市橋克哉氏

設立初年度第1回の研修会は、名古屋大学大学院法学研究科の行政法の専門家であり、個人情報保護について豊富な実務経験をお持ちの市橋教授を講師にお招きし、教職員を対象として行われました。学生・教職員約2万名の1つの街としての大規模大学における個人情報への考え方、規程や実行組織、そして大学ならではのものを含む事例について、(もちろん内容は個人情報に触れないよう深く配慮されていますが)他では聴けない貴重なお話をいただき、参加者

一同、大いに理を深めることができました。個人情報の侵害や漏洩が問題になるのは付属病院関連が多く、次いで入試情報、学生の成績情報に関するものが多く、病歴や心理カウンセリングなどのセンシティブ情報は特に厳格に管理しているとのことでした。本学でいえば入試、教学、学生支援に関わる部分、および実習関連が重点との認識を持ちました。

講演の後、予定時間をオーバーして活発な質疑が行われ、参加者30名にとって、教養と大学運営上必要な個人情報を活用しつつも、プライバシー侵害や不本意な漏洩などを起こさないための管理、そして問題が発生した場合の速やかな対応の重要性を再認識する有意義な研修会でした。

病院修学資金制度説明会

4月23日(水)、臨地実習病院による「平成20年度修学資金合同説明会」が学生ホールにおいて開催されました。本会は、修学資金制度だけでなく、各病院についての情報収集ができ、今後の臨地実習や将来の就職・進路を考える上でも大いに役立つ場となります。参加病院の各ブースでは、真剣な表情で熱心に病院担当者の説明を受ける学生の姿が見られました。



平成20年度 入学式

四日市看護医療大学入学式が4月1日(火)午前10時から、同大学キャンパス内の会場にて挙行されました。当日は四日市市長をはじめ多くのご来賓の方々にご臨席いただきました。本学2期生となる新入生99名全員が出席し、河野啓子学長の入学許可宣言に始まり、学長式辞、宗村理事長の挨拶、井上四日市市長、桜井三重県議会副議長、毛利四日市市議会副議長のご祝辞を頂き、新入生代表による宣誓をもって式は滞りなく終了しました。また式辞、祝辞では、社会的責務の重さや地域社会における期待の大きさが語られ、新入生一同、修学に向けて決意を新たにしていました。



教育後援会役員会・総会

5月24日(土) 本学において、教育後援会役員会および総会が開催されました。当日は、昨年度の事業報告、役員選出、事業計画、予算等の事項について審議され、すべて承認されました。また、出席した保護者と大学側との活発な意見交換もなされ、内容の充実した有意義な会となりました。



質問 1

2学年になって授業の内容が難しくなっているが、今後大学で補習等のサポートをしていただけるのでしょうか？

● 授業を含め大学で困ったことについて適切に対処させていただきます。まず、身近な教職員に御相談ください。

質問 2

昨年の懇談会でキャンパス見学をした際、実習備品が足りないと感じましたが大丈夫ですか？

● 実習備品は年次で調達しており、初年度は少ない状態でした。先般、今年度分の納品が完了し、大方の実習備品が整いました。

保護者懇談会

保護者の皆様と大学との相互理解を深める場である「保護者懇談会」が、9月13日(土) 本学内で開催されました。

午前の全体会では、河野学長より本学の教育理念等について、続いて宮崎学科長より学生生活全般について説明がありました。その後、会場を学生食堂に移し、昼食を兼ねての懇親会が行われ、保護者と教員、あるいは保護者同士が和やかな雰囲気の中で、活発に交流する場面が見受けられました。午後の部では、各研究室において教員による個別面談、また面談の空き時間を利用して学内の施設見学が行われました。保護者からのアンケートでは、「先生方が真剣に子供に対して接してくれていることがわかった」、「面談などを通じて子供の様子を知ることができた」などの回答が寄せられ、保護者と大学双方にとって有意義であったものと思われまます。



オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは合計3回開催させていただきました。多くの方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

また、自ら進んで協力してくれた学生たちも本場に頑張ってくれました。丁寧に対応する先輩たちの姿をみて、本学に入学して一緒に勉強したいと感じる方も多かったですかと思えます。

参加状況ですが、7月20日(日)は198名、8月24日(日)は131名、9月23日(祝)は131名と合計460名の方に参加いただきました。地域別では、三重県が211名、愛知県が51名、その他に岐阜県、静岡県や長野県からの参加となっています。

実施内容では、全体説明として学長挨拶や入試概要、そして第1回目には四日市市経営企画部長から公私協力方式の説明などが行われました。午後からは、学生食堂でバイキング形式でのランチ体験の後、模擬講義や体験実習、施設見学など自由に参加できる形式で行われました。

『新入生歓迎会』

春の風が心地よい4月3日(木)の午後、学友会主催による新入生歓迎会が学生食堂にて開催されました。

アカペラサークルのメンバーによる「旅立ち」をテーマにした歌で始まり、学長をはじめとする教職員から歓迎の言葉、また先輩学生からクラブ・サークルの紹介・勧誘、さらに趣向を凝らしたゲームなど、終始賑わいを見せました。



新入生らの初々しい表情とは対照的に、本会を企画運営し、その役割を見事に果たした2年生らの真剣で凛々しい姿に1年間の成長ぶりも垣間見ることができました。2年生の皆さん、おつかれ様でした。

学友会執行部役員

会長:井上 美香 書記:吉田 真由美
副会長:奥村 愛 会計:藤川 幹仁 別府 真衣



教員の声

老年看護学 講師 荻野 朋子

早いもので研究室の窓から赤く色づいた木々を眺めることのできる季節になりました。4月に99名の新入生を迎え、にぎやかになったと実感したのがついこの前のように感じます。学生ホールやエレベータホールにはノートや本を広げる姿が増え、研究室を訪れる学生を目にするのも多くなりました。



学生の活気は、大学そのものを元気にしてくれると感じます。サークルも後輩を迎え、活動ににぎやかさが増えたと思います。先日、私が学生時代に入っていたサークルが創立30周年を迎え、現役部員とOB・OG合わせて100名余りの記念パーティーを行いました。私が活動していたころは、部員も十数名でしたので正直驚きました。そして、私たちの活動が脈々と受け継がれ発展し、100名を超す現役部員により今も続いていることに感動を覚えました。小さな積み木が一つ、また一つと積み上げられ、30年の積み木が高々と積み上げられたわけですね。大学生の本分はもちろん勉学ですが、学生自治会、サークル、大学祭など学生の力で練り広げられるさまざまな活動も私はとても大切だと考えます。そして今年の大学祭では、2つめの積み木が積み上げられたと実感しました。これからは積み木を見守りつつ、どのようなサポートができるのかと改めて考えはじめています。

FD (Faculty Development) の浸透

Faculty Developmentとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称

FDワークショップ

委員長の立場から

学長・FD委員会委員長 河野 啓子

教員の教育力を高めるためのFD活動の一環として、昨年に引き続き本年度も全教員参加のFDワークショップを、9月3日(水)に開催しました。

今回のワークショップのねらいは、本大学の教育理念と各領域における教育の概念枠組みとの関連を確認し、また、本大学の基礎科目領域、専門基礎科目領域、専門科目領域(基礎看護領域、成人看護領域、老年看護領域、小児看護領域、母性看護領域、地域看護領域)のそれぞれにおける教育の概念枠組みを理解し、各領域間の教育連携の足がかりを得ることでした。

午前中は各領域からのプレゼンテーションと質疑応答でしたが、他の領域の教育概念が理解でき、また、質疑応答を通してそれぞれの教員の教育観

FD委員報告

基礎科目教員にとつてのFD活動

高齢社会論 准教授 東川 薫

本学FD委員会は去る9月3日、昨年度の活動成果を踏まえ、第1回のFDワークショップを開催しました。まず、本学のみならず、看護学共通の教育理念である「人間たれ」はもとより、より具体的な本学の教育目的・目標に対して、全ての教員およびそのチームである各看護領域において展開されている教育がどのように対応しているのかを明らかにしました。そしてその上で、少人数に分けた率直な意見交換並びに全体討議を通して、各教員相互の理解を深めました。

もうかがい知ることができ、大変有益なものだったと思います。午後のグループディスカッションは3つのグループに分かれて行われましたが、10人足らずの小グループであったこと、さまざまな領域のメンバーで構成されていたこともあり、活発な討議が行われ、各領域間の教育連携のための足がかりができましたし、よりよい教育のための方策についても多くの成果を得ることができました。



FD委員とはいえ、私は基礎科目(高齢社会論)担当ということもあり、率直に言って、看護の専門の詳細については、十分に理解しているわけではありません。とは言うものの、本学の教員として教育理念・目的・目標に即して、看護学生が対象であることに常に念頭に置き、教育を展開していくことが当然求められます。だからこそ、このワークショップは各教員、また各看護領域の基本的考え方を理解し、また自らの日頃からの疑問点を率直に尋ねられるまたない機会となりました。今後はこの成果を日頃の教育に活かしていきたいと考えます。



教員の出版図書紹介 『産業保健・産業看護論』 河野 啓子 著 日本看護協会出版会 2008年

働く人々が安全で健康な、そしてQOL(Quality of Life:生活の質)の高い職業生活が送れるように、学際的な産業保健チームの一員として看護専門職の立場で支援する、いわゆる産業看護について総論的にまとめました。内容は、6章から成り、それぞれ産業保健・看護の理念、わが国における産業保健・看護の実態、産業保健の基本と産業看護活動、主な産業看護活動の実際、女性労働者への健康支援、これからの産業保健・看護について述べました。



基礎看護学実習Ⅰ (平成19年度)



地域看護学実習Ⅰ (平成20年度)

基礎看護学実習Ⅰを終えて 基礎看護学 准教授 長江 拓子

1年次2回目となる今回の臨地実習は、看護学概論および看護基礎援助論Ⅰ・Ⅱに対応したもので、大学周辺の総合病院4施設において、「援助的人間関係の基礎的能力を養う」ことを目的としてスタートしました。

学生は1グループ5～6名で24グループに分かれ、前半組(2月25日～2月29日)と後半組(3月3日～3月7日)の2部構成で、初日の病棟オリエンテーションから終日のレポート作成および個人面接までの合計5日間、学生達は普段とは違う医療の現場で、一人の入院患者の方を始めて受けもち、ベッドサイドに立ちました。学生は実習目的である受けもち患者に、コミュニケーションや生活行動援助にかかわりながら、受けもちのその

方を理解しようと関心を持ち、患者の思いに寄り添い、積極的に看護援助に参加し、その目的を達成することができたと思います。このことは、日々の実習記録、自己評価を用いた個人面接や実習後の課題レポートにおいて、振り返ることで、患者のことだけでなく自分自身の傾向や課題を発見できていたことから覗えました。今回の実習体験を基礎看護学の総仕上げとなる2年次において最大限に活かし、今後の学習に臨み、看護の魅力や育むことを期待します。

143名全員が「基礎看護学実習Ⅰ」を修了することができ、病院実習施設関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

地域看護学実習Ⅰを実施して 地域看護学 教授 中村喜美子

7月28日～8月1日の5日間、地域看護学実習Ⅰが行われました。この実習は、看護が実際に行われている場に1年生が初めて出向き、地域社会で人々の健康を支える看護専門職(保健師、助産師、看護師)の活動の実際を知り、看護の魅力を発見して、今後の学習の基盤を養うことを目的としています。健康障害を治療する場として3つの病院、通常の生活の場として4つの企業と5つの保健センターのご協力をいただきました。初日は学内でオリエンテーションを行って臨地実習への意欲を高め、続いて、病院又は企業・保健センターでそれぞれ1日の見学実習を体験しました。4日目には、学内で、各自の体験を病院間、企業間、保健センター間で

紹介するグループワークを行い、病院、企業、保健センターの特徴をまとめました。最終日には、異なる施設に出かけた学生をできるだけ組み合わせさせてグループを組み、協力施設全般の体験を統合して、看護職の活動の実際について理解を深めました。その成果が、「地域看護学実習Ⅰ グループワークのまとめ」です。是非、お子様と一緒にご覧ください。

※写真は学内での授業風景です。

現場に学ぶ
臨地実習を終えて

基礎看護学実習Ⅰをふりかえって ～実習体験記～

—対象者の思いに意識を傾けるということ—

実習先：市立四日市病院
2年 水野 佑美

基礎看護学実習Ⅰは、初めて患者さんを受け持たせてもらって行う実習でした。私はこの実習で、コミュニケーションをとることの重要性を改めて学ぶことができた気がします。

実習中、私は患者さんと様々な会話をしました。家族のことや若い頃のこと、現在の思い、その時は何気なく話していたことで、患者さんの人柄や、接する上で尊重すべきことなどが感じとれます。それらを踏まえて対象者が必要としていることを悩み考え、実践していく中に、看護というものが見えてくる気がしました。こういったことが患者の視点に立った個性を尊重した看護であり、ケアの深まりに繋がるものであると感じます。

私は今回の実習で患者さんから様々なことを学ばせてもらいました。患者さんがかけてくれた「ありがとう」という言葉。この先私を支え続けてくれる言葉となると思います。今回このような貴重な経験を与えて下さった全ての方に心から感謝します。

—対象者を知って始まること—

実習先：いなべ総合病院
2年 横田 一樹

私は、基礎看護学実習Ⅰにおいて対象者について知ることの必要性、その方法、そこから考える援助について学ぶことができました。

基礎看護学実習Ⅰの目標でもあった対象者に関心をもつということから、私はまず対象者について知ることが必要だと考えました。そうすることで、対象者がどのような援助を必要としているか、どのような悩みを抱えているかがわかると考えたからです。また、その方法は1つだけでなく、対象者との会話や、カルテを見ること、対象者の表情・様子からもさまざまな情報を収集できるということを学びました。また、いろいろな方法で情報を収集することで、対象者を一方向からだけでなく違う方向からも見ることができ、よりその人にあった援助も提供できると感じました。このように、集めた情報からその人に残っている力を最大限に活かし、自立という目標に繋げる援助を行うことの大切さを、この実習を通して感じました。

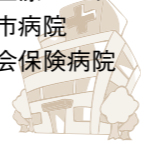


現場レポート 基礎看護学 講師 小笠原 ゆかり

学生の緊張がほぐれた状態で実習に臨めるよう、学生とコミュニケーションを十分に図り、学生と一緒に清拭(身体を拭くこと)や足浴などを実施し、学生とともに歩む実習でした。緊張して受けもち患者さんのもとへ行けない学生、血圧測定がうまくできず焦っていた学生、実習記録の書き方がわからないと悩んでいた学生、自分が考えていることをうまく表現できず悩んでいた学生…。4日間の病棟実習は、学生が今まで経験したこともない初めての困難に遭遇しました。担当教員と実習指導者とともに、そしてまた実習グループのメンバーに支えられながら、学生はその困難に向き合い克服していくことで、多くの学びを得ることができました。

実習病院一覧

- * いなべ総合病院
- * 県立総合医療センター
- * 市立四日市病院
- * 四日市社会保険病院



—リアルな産業看護に触れて—

実習先：NTN株式会社桑名製作所
1年 杉野 友美

私は、7月29、30日に実習に行き、企業と病院という2つの場所での看護の役割を体験しました。特に、企業での看護の役割については想像ができていなかったため、自分の目で見て、感じる事ができて、自分自身大きく成長できたと思います。

企業では、健康のための自己ケアができるように食堂など社員の方が集まる場所に体脂肪計や血圧計などを置き、いつでも自分の健康が把握できるような工夫がなされていました。また、健康診断の実施や様々な健康づくりの活動を通して、「予防」に努めていたのが印象的でした。

私は、この実習で企業での看護の重要性を認識できました。臭いや騒音など、様々な悪条件の中で働く人々への看護の大変さを痛感すると共に、看護に対する意欲も高まりました。今後、産業看護について更に多くの事を学び知識を深めていきたいと思えます。



実習施設一覧

- * 朝日町保健福祉センター
- * 東芝四日市工場
- * NTN桑名製作所
- * 本田技研鈴鹿製作所
- * 川越町健康管理センター
- * 富士電機
- * 桑名市中央保健センター
- * リテイルシステムズ三重工場
- * 県立総合医療センター
- * 四日市社会保険病院
- * 菰野町保健センター
- * 四日市市保健センター
- * 市立四日市病院

地域看護学実習Ⅰをふりかえって ～実習体験記～

—まずは信頼関係を築くことから—

実習先：四日市社会保険病院
1年 寺尾 亮平

病院での実習を通して、4月から学んだ知識や技術が現場でいかに大切であるかを体感することができました。また、現場で働く看護師・保健師さんの生の声を聞くことができ、将来の看護専門職像のイメージが鮮明となりました。特に、看護専門職に必要なのは、看護の理論や知識だけでなく、患者さんの行動や発言から、患者さんの心のメッセージや本当に欲しているものを読み取り、感じなければ、信頼関係が築けず、よりよい看護ケアを提供することができないということを学びました。このことは、大学の建学の精神「人間たれ」の、人間としての心の温かさを持ち、情緒的で、感性を豊かにするというにも通じるのではないかと思います。

私たちが4年後には実際に看護師・保健師として働くのであると実感し、今何をしなければいけないのかを把握することができ、患者さんを前にして、よりスムーズに、相手に合わせたコミュニケーションができるよう、身近なところから能力を高め、どんな人とも話せるように、日々研鑽を積んでいきたいと強く思う実習でした。

現場レポート 地域看護学 講師 山田 裕子

私は、通常の生活の場として健康増進施設を担当しました。そこには、生活習慣病予防や手術後の回復などの健康増進を求めて住民の方々が集まってきます。学生は、実際に健康運動指導士や看護師など多職種により人々の健康を支援する場を体験し、また、健康増進を実践する人々と交流して、初めて「健康増進」を肌で感じているようでした。「地域社会で生活する人々の健康の実態」を予防レベルから捉えることができ、人々の健康を支える看護職の魅力を発見できた実習でした。



海外研修で学んだこと 語学ブラッシュアップ! 2年 庄珠実

この研修で一番印象に残ったことは、英語の授業と留学生を対象としたコミュニティに参加したこと。買い物に行くことや大学内を探検することも英語に触れるいい機会でしたが、やはり日本人同士で行動するので日本語中心でした。しかし、授業では先生は、英語のみで講義され、ホワイトボードに書かれる字も英語です。当たり前ですがさすが新鮮で、先生が話す言葉、書かれる文字を本当に集中して聞いたり書いたりしました。

前に出て発表する時は発音に気をつけて自信を持って話せるようにと毎日必死で授業に臨みました。また、3週間という短い期間の中でできるだけ英語に触れようとコミュニティに参加したのですが周りの英語のうまさに圧倒されました。初めはなかなかコミュニケーションが取れなくて落ち込むことも多かったのですが、周囲の優しさに助けられ、回を重ねることに積極的に話せるようになりました。

今回の研修で英語を通して友達もでき、コミュニケーションをとることの難しさや楽しさを感じました。語学力を磨くために更に勉強したいと強く思う3週間でした。



海外研修を終えて

素敵な笑顔が印象的!

2年 若野友香

3週間という短い期間でしたが、私にとっては、日本との文化の違いや医療行為・制度の違いを多少なりとも理解することが出来た研修となりました。

語学の授業では、単語の発音の仕方や、自分で医療のテーマを決めてそのことについて英語で発表しました。私は糖尿病について発表しましたが、英語で自分の考えやコミュニケーションをとることは大変難しい反面、相手に伝わった時は言葉にできない程の喜びと感激を覚えました。

病院や介護施設を見学して感じたことは、積極的に医療に参加されているのは両国の看護師の方共通ですが、アメリカの看護の現場では、何故かゆとりを感じられ、また、看護師の方の笑顔がとても素敵だったのが印象的でした。

私が海外で最も驚いたことは、身体に障害のある方や車椅子の方がとても積極的に外に出ていることです。バリアフリーが多く、外に出られる環境が整っているからだと思いました。

私にとってこの研修はとても貴重な経験であり、これからの勉強に活かし、自分自身を成長させていきたいと思います。海外研修というチャンスを与えてくださった大学や先生方に感謝しています。

現場レポート アメリカでの海外研修に参加して

母性看護学 教授 赤井由紀子

今年度から初めて実施される海外研修に引率として同行し、2年生29名とともに、3週間アメリカのカリフォルニア州立大学ロングビーチ校で過ごしました。海外には何度か行っていますが、この様な長い滞在は初めてです。この研修でとても良かったことは、学生の皆さんの成長をまじかに見ることができ、とても嬉しかったこと、仲良くいろいろお話できたことです。全く日本語の通じない環境で過ごすことは語学の上達には一番だ

と痛感しました。寮の部屋に鍵を入れたまま、何度もロックしてしまい(私もですが)、そのたびに、管理人さんに開けていただいたことが思い出されます。「こんなとき英語では何ていうの」から始まり、「まあ、単語表現の英語と身振りで通じた」から、いろいろなハプニングがありました。マーケットでの買い物も日本語が通じないのですが、何とかかんとかが買い物もできました。楽しかったですね。最後に、とても素晴らしい皆さんと共に同じ時間が過ごせたことが一番の思い出です。



海外研修

語学を学び・看護を学ぶ

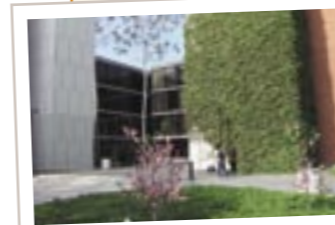


平成20年度海外研修が8月4日(月)～22日(金)まで米国カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(CSULB)にて実施されました。第1回となる今年は2年生29名が渡米し、CSULBにて3週間の研修、ロングビーチの病院・施設、市内見学等に臨みました。生活のスタイルも習慣も異なる生活文化を自分の肌で感じ取るとともに世界に目を向けたグローバルな視野や国際感覚を身につけることができたものと確信します。

- 【研修先】 米国カリフォルニア州立大学 ロングビーチ校
- 【研修期間】 8月4日(月)～8月22日(金)
- 【研修対象】 2年生 29名
- 【研修内容】 語学および看護学の研修



8月には、本学の「第1回海外研修」が同大学にて行われ、3週間にわたって本学学生29名が看護学と英会話の研修を受けました。今後は互いの教育・研究を発展させるため、学生同士の交流はもちろんのこと、両大学の教員や研究者による学術研究面での交流も積極的に行っていく予定です。



米国カリフォルニア州立大学
ロングビーチ校と
「学術交流協定」を締結

四日市看護医療大学では、平成20年3月、米国カリフォルニア州立大学ロングビーチ校と「学術交流に関する協定」を締結しました。協定では、両大学が友好を深め、親密な交流関係を樹立し、学生、教員、研究者の学術交流や学術資料の交換などの活動を行っていくことが定められています。

10/25(土)・26(日)

第2回 大学祭

ピース

～人と人とのつながり～



今回の大学祭のテーマ「ピース」はパズルなどの一片のピースと平和のピースを掛け合わせイメージされたものです。学生一人ひとりそれぞれ個性豊かで、パズル片のように違っていますが、一つに集まれば一つの大きな目標を達成する、そんな意気込みで掲げたテーマの下、大学祭実行委員会が中心となり、盛大な大学祭を開催する事が出来ました。

一日目は、昨年同様、学内親睦会となり、学長のあいさつの後、軽音部によるバンド演奏やLape★Lape(アカペラサークル)による合唱、本年度設立したジャズダンス部によるダンス披露で幕を開けました。体育館ではクイズ形式のスポーツ等を行い、汗を流しながら団結し合う姿が見られました。

二日目は一般公開の中、各模擬店の出店やインストラクターを招いての『よっかいちステキ健康おどり』や看護学生としての特色を生かした催しを取り入れられました。あいにくの小雨模様の中ではありませんでしたが、多くの一般来場者の方も参加され、各催し会場は大盛況となりました。

今回の大学祭はテーマのとおり、第一期生・二期生が力を合わせたことによりそれぞれのピースが団結力と満足感をPeaceの願いの下で感じとれたものと思っています。



大学祭を終えて

何日もかけて準備してきた大学祭二日間は、あっという間に終わりました。やり遂げた今、達成感を感じながらどこか寂しさを感じています。

私は初めて実行委員に携わったのですが、とても楽しく充実し、やりがいがありました。教職員の方、先輩方、仲間の温かな協力により助けられ報告する事、連絡する事、相談する事など様々な事を学ぶことが出来ました。今年の良かった点や改善点を生かし来年も是非、実行委員をやりたいと思っています。

一年生(大学祭実行委員) 中筋翔子

今年の大学祭は実行委員長であるはずの私は何もしないまま他の実行委員に引張ってもらい当日までたどりついたように感じます。成功できるかと不安に思っていた企画も成功に導いてくれ、私も気がつく前に問題を解決してくれた実行委員の仲間がいたからこそ盛大な大学祭を作り上げることが出来たと思います。実行委員の行動力には驚かされればかりの学祭期間でした。

二年生(大学祭実行委員長) 近藤あおい

平成19年度 第1回 大学祭収益金

寄付

平成19年11月2日(金)、学友会会長ら代表3名は、第1回大学祭模擬店で得た収益金の一部を、地域の社会福祉に役立てていただくため、四日市市社会福祉協議会を訪ね同協議会の松本常務理事に手渡しました。学生らは、「記念すべき第1回大学祭をただの祭り事で終わらせるのではなく、少しでも社会に貢献できるものにしたかった。寄付活動は今後につなげたい」と語り、常務理事より、本学学友会に謝意と感謝状が贈られました。

公開講座

『産業看護研究センター』

働く人びとへの健康支援・臨床看護に活かす産業看護学 学長 河野啓子

四日市看護医療大学では、地域の福祉・健康の増進、文化振興など、社会の要請や課題解決に向けた取り組みや活動を行っております。その一環として、公開講座を2008年3月11日(火)18時～20時、および3月13日(水)18時～20時に開催いたしました。

テーマは「働く人びとへの健康支援」臨床看護に活かす産業看護学」で、学長河野啓子先生を講師とし、パワーポイントを使って働く人びとの健康問題の現状、産業保健・産業看護活動、事例に基づいた健康支援、アメリカ・メイヨメディカルセンターでの産業看護活動の実例等をお話ししました。



会場には医療機関に従事されている方々を中心に45名のご参加をいただき、質疑応答の際には活発に意見交換がされるなど、有意義な講座となりました。

地域に根ざした大学として、ニーズにお応えできるよう一層努力していく所存です。更なるご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

産業看護研究センターとは

- 2001年4月に四日市市の四日市地域政策研究所が四日市大学に移管され、以来四日市大学地域政策研究所として、地域に関する研究、政策立案・提言などを行うてきました。2007年4月には四日市大学に隣接した敷地に四日市看護医療大学を開学し、それに伴い発足した産業看護研究センターを新たにひとつの部門とし、地域政策研究所と2部門を持つ学校法人暁学園所管の四日市地域研究機構と改組いたしました。
- 地域社会における産業看護のシンクタンクの機能を果たし、地域に対し積極的な情報発信を行います。
- 現職および潜在する地域の保健師・助産師・看護師に対する講習
- 企業・自治体への講習・研修の実施
- 地域の企業・自治体等との産業看護に関する共同研究や受託研究

みえアカデミックセミナー

平成20年7月16日(水)、三重県生涯学習センター主催「みえアカデミックセミナー2008」の公開セミナーで、本学の露木敏子教授による講演会が開催されました。

当日は、三重県総合文化センターにおいて、露木教授が、「魂は老いず」文豪丹羽文雄の晩年をしのぶアルツハイマー病の現状を考へる」という演題で、およそ80名の参加者に対して、2時間に渡って講演を行いました。

丹羽文雄の晩年を襲ったアルツハイマー病の様子を丹念に追いつながりながら、その対処法をさぐるという内容に、参加者の方々は熱心に聴き入っていました。

来年度以降も、看護大学らしいテーマで臨んでいきたいと思っています。



「みえアカデミックセミナー」は、三重県下の大学・短期大学・高等専門学校15校が「心豊かな人生へのアクセス」という全体テーマのもと、それぞれ公開セミナーを実施するというものです。

シティ・ミーティング in キャンパス

四日市市議会が主催する意見交換会「シティ・ミーティング」が2月6日(水)に開催され、市議会16名と四日市看護医療大学、四日市大学の学生40名とが1時間半にわたり、自由に意見を交わしました。

今回は次世代を担う若者の考えを聞きたいということで、両大学に提案されたもので、本学学生は、地元、生糸地区の道路事情や公共交通機関の利便性の追求について議員への質問をするなど、意見交換の口火を切りました。



四日市商店街の空洞化対策や環境対策を求める意見など、その後も両大学の学生と議員との間で活発な意見交換がなされ、議員からは今回の意見を議会に持ち帰り、より良い街づくりの参考にしたいという回答が得られ、有意義な会となりました。

学生公認団体クラブ 五十音順

体育会系

- ◆硬式テニス部
- ◆ジャズダンス部
- ◆ソフトテニス部
- ◆バトミントン部
- ◆バトン部
- ◆バレーボール部
- ◆フットサルサークル
- ◆ヨガサークル
- ◆陸上球技部

文化会系

- ◆ENGLISH CLUB
- ◆家庭科部
- ◆軽音楽部
- ◆さど一部
- ◆吹奏楽部
- ◆デジャ部(ディベート)
- ◆ボランティアサークル
- ◆メンタルフレンドサークル
- ◆Lape ☆ Lape (アカペラ)

クラブ紹介

ボランティアサークル

私たちボランティアサークルは、自分達に出来る事がしたいという気持ちを持った仲間が集まって創部しました。ボランティアをした事がない人がほとんどで、最初はゼロからの手探り状態でしたが、今は脳障害をもつ子の手伝いを中心に託児ボランティアや学会ボランティア、失語症などの障害を持つ人とのふれあいなど、それぞれ自分の興味のある分野に参加しています。また、大学内でも学生の協力のもと、ペットボトルの蓋やプルタブを集める活動もしています。

ボランティア活動は、様々な人と出会い、新しい体験や感動を得る事ができます。見方や考え方が広がり自分が成長できることや、人間を知る大きな魅力もあります。看護師を目指す上でも大切な事をたくさん与えてくれます。これからは自分達で何が出来るのかを考えながら行動範囲を広げて行こうと思います。応援宜しくお願いします。



volunteer

ジャズダンス部

ジャズダンスって知っていますか？ジャズと聞くと、バーなんかでトランペットやピアノで演奏している場面が思い浮かびますが、ジャズダンスは簡単に言うとヒップホップとクラシックが混ざったようなオールラウンド的なダンスです。要するに何でも踊れるというわけです。

ジャズダンス部は7人で週2回ほど活動しています。キャプテン以外は初心者で、当初は教える方も教えられる方も恥ずかしくてなかなか思うような形になりませんでした。しかし後期になってからの練習はキャプテン顔負けの熱心さが伝わってきており、学祭に向けて着々と腕を上げてきました。ダンスは踊っている人も見ている人も同時に楽しめるスポーツです。皆さんと触れ合う機会がありましたら、その時は一緒にリズムをとってくださいね。今度とも皆さんと触れ合ってくださいと思いますので宜しくお願いします。



保健室だより

11月12日(水)・13日(木)に学生・教職員を対象に学内でインフルエンザ予防接種を実施しました。

また12月1日(月)には学生を対象に3回目のB型肝炎ワクチン接種を実施しました。これで、年間を通じた抗体価検査およびワクチン接種も臨床実習に向けてすべて終了しました。3回のB型肝炎ワクチン接種で約90%の確率で抗体が獲得されると言われていますので、来年度の抗体価検査では、抗体の獲得が期待されます。



四日市看護医療大学のロゴマーク

四日市看護医療大学のロゴマークは、頭文字である「Y」の文字をもとにデザインされています。4本の太く力強いラインで四日市港の波を表し、またそれらが重なり合って作られた形は、これから未来に向かって伸びてゆこうとする看護大学の学生に見立てた若葉の重なり合っている様子を表現しています。そして、その波の形の交差しながつながらる様子は、大学の基本コンセプトである「見る、護る、そしてつながる」を表現しています。